

第31回

うつのみやこども賞だより

平成26年度 7回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『風船教室』

吉野万理子／著（金の星社）



～読んだ本の感想より～

- 時生が学校で1人1つもたせられた風船の色々な謎を解いていくところがおもしろかったです。
- なににでも思いがあることがわかりました。風船の思いが伝わってよかったと思いました。
- 風船たちが時生たちのことを助けたり、見守っていたとわかったとき、風船をわらなくてよかったと思いました。

- おじいちゃんがつくった風船がうごくなんて！と思いました。物にも気持ちがあるから大切に使おうと思いました。
- 時生のお母さんと時生を守っているピンク玉にかんどうしました。
- 風船に宿っているお母さんの心はあたたかいと思った。

『文学少年と運命の書』

岡田依世子／著（アリス館）

- 玉策のように本を食べれば暗記できる能力があったら、ほくは教科書などを暗記して友達をおどろかせてみたいです。
- 最初は仲が悪かった2人がおたがいを助け合い、信じ合っていく所がよかったと思いました。
- おくぶかい内容だった。むずかしい言葉がでてきて分からない所もあった。
- 阿恩のかいた物語を読みたくなりました。

『ブルーとオレンジ』

長江優子／著（講談社）

- 同じ日のことを書いているけど、ブルーとオレンジの両方から見た話だったので感じ方がちがった。いじめをやめようとがんばっているオレンジのことをえらいと思った。
- ブルーとオレンジの性格の差を読み取るのがおもしろい。小学校の話なので共感できる。
- ブルーがいじめをなくすために立ちあがったとき、みんなも同じ気持ちなんだなと思って感動しました。
- 特にブルーの章の方がおもしろかったです。ブルーが言った言葉や学校のことがとても共感できました。
- 自分の意見を私もはっきりと言いたいと思いました。

『図書室のふしぎな出会い』

今井恭子／著（文溪堂）

- 人の縁について思いなおしました。当たり前、いつも通りとはすごいんだ。ということを実感しました。
- 私も命ってあっけないと思っていたけど、この本を読んで一生けんめいに生きようと思いました。
- 図書委員なのでとても共感できました。
- クラスの間とのごかいがとけるシーンがよかった。